

近隣交流 ベルブ永山グリーンプロジェクト

梅澤ゼミ3年 隅田智明 望月祐介 長原康至 2年 金山峻大 菅寛貴

1. プロジェクトの経緯

私たちは、昨年度、多摩ニュータウンに住むお年寄り、とりわけ一人暮らしをしているお年寄りが、日常的に外に出て地域とつながりをもってもらうためにはどうしたらよいか、どのようにしたら世代間交流が出来る場を作ることができるのか考えた。※2011年度地域PJ発表祭資料をご参照ください。

二世帯、三世帯での同居が難しい集合住宅で、一人暮らしのお年寄りが多い多摩ニュータウンでは、外出をして交流を持つ場所やキッカケがなく、団地内で引きこもりがちになっている。そんな状況を改善するためにどのような方法が有効かを考えた。ゼミで話し合いを重ねるうちに「お隣同士で物の貸し借りが出来る」昔の下町のようなアットホームな関係作りが出来れば、外出してもらえるキッカケになるのではないかという意見がまとまった。

イベントを通じて交流を図る方法も考えたが、イベントは一過性のもので継続的に外出してもらえるわけではなく、そのイベントは日常的に繋がりがあってこそ活かされるものだと考えた。

そこで、「ちょっと外に…」という意識が、外出に繋がり生活の一部になるような「しかけ」を議論した。その結果が「みんなの菜園」である。今現在、70・80代のお年寄りの方は、農業を経験したことがある方が多い。しかし、団地暮らしが長い方は自然を楽しむ知識が無い。そういった方々が菜園で農業の知識を教え合いながら交流が図れるのではないかと考えた。水遣りなど小まめに世話をする必要のなる菜園ならばコミュニケーションが取れ、近隣交流・世代間交流に繋がると考えた。

このみんなの菜園プロジェクトを進めていく中で「ベルブ永山の屋上緑化スペースが手つかずになっている」「諏訪小学校では菜園をやっている」という有力な情報を片桐徹也先生に教えて頂いた。我々は「みんなの菜園プロジェクト」を進める上での第一歩として「諏訪小学校プロジェクト」と「ベルブ永山グリーンプロジェクト」を立ち上げそれぞれに取り組むことにした。

2. プロジェクトの目的

今回のプロジェクトの**目的はベルブ永山（多摩市立公民館）の屋上でハーブや花を育てる事により、現在手付かずの屋上を活性化させベルブ永山を自然溢れる市民の交流の場にする事である。**

ベルブ永山とは、永山駅から徒歩5分の距離に設立されているパブリック施設と商業施設が入った複合施設である。現在ベルブ永山には、図書館やコミュニティセンター、飲食店などがあり、サークル活動などが行える設備も配備しており多摩市民の学びの場になっている。冬季に開催されるイルミネーションの点灯式や毎年9月下旬に行われる永山フェスティバルの会場になるなど多くのイベントが行われる場所でもあり、このエリアの中心的な役割を果たしている。しかし、そのベルブ永山の屋上の緑化スペースは管理上の問題に加えてゴミの投棄など様々な問題があり、現在は封鎖されている。開放されるのは毎年夏に行われる公民館の保育室の子供達向けのプールイベントの際だけである。そこで今回ハーブガーデンや季節ごとの花の寄せ植えを作り屋上緑化というテーマでこのベルブ永山グリーンプロジェクトが出来た。しかし、公民館の方との協議の結果、屋上の緑化スペースの下には配管があり、花の寄

せ植えに利用するのは難しいという結果になり、屋上下のテラスでプランターを使用した活動に変更した。このプロジェクトによってハーブや花を利用し地域の人々のつながれるコミュニティーを作ることを目的とするコーディネーターとして活動することとなった。

3. 活動内容

2011年10月に永山公民館へ企画書を持参し、企画の説明と連携のお願いを行った。その際、ハーブと花を育てる予定である屋上を視察。その結果、事前に聞いていた通り、屋上にある緑化スペースは使用されておらず、管理の関係上、屋上へ通じる扉は普段から施錠されており、一般の方の出入りはできない状態であることが分かった。屋上の緑化スペースの土の下には配管等があり、土は20cmしかなく素人では手が付けられないということも分かった。そこで公民館側から「屋上スペースではなく屋上テラスでプランターを使った花やハーブの育成」という提案を頂き、私たちは改めて活動場所を屋上緑化スペースから屋上テラスへと変更した。また、例年屋上テラスにて行われるグリーンカーテンを朝顔で作って欲しいとの要望を頂き、我々はそれも担当させて頂くことになった。

2012年2月下旬…**肥料、用具の準備**、3月下旬…土の再生作業、**季節の寄せ植え作り**（協力）多摩グリーンボランティア森木会、多摩市立グリーンライブセンター、4月…ひまわり・コスモスの種、スープレロリー・スペアミントの苗の植え付け。朝顔の生育状況を見ながら配布用ポットへの植え替え作業。その後は梅澤ゼミ全員による1日に1度の水やり、**永山公民館入口へ育てた花を飾る**。7月…**朝顔の苗約50カップを配布**。プロジェクトを始めた当初に地域の方から頂いた朝顔の種を私たちが育て、それをまた地域の方々に配布することで地域のつながりをつくり交流へ近づいたことを実感することができた。しかし、50カップでは数が少なかったため、来年度は300カップに数を増やすことにした。8月…永山公民館の保育室乳幼児が水遊びプール開き。ピーかぶーのイベント参加。**ひまわりとルドベキアを乳幼児と保護者の方々に楽しんでもらった**。9月…永山フェスティバル実行委員主催「**永山フェスティバル**」**メインステージ前に花を展示**。出演者、関係者の方々からは「ステージが花によって華やかに彩られていてよかった」「来年もやるならぜひお願いしたい」などのお言葉を頂いた。しかし同時に、「誰が花を置いているのかわからなかった」「プランターにプロジェクト名をしっかりと載せてPRしたほうがいい」などといったアドバイスも頂くことができ、来年度に向けての大きな収穫となった。

イベントに参加させて頂くにあたり、エリア調査の一環として新都市センター開発永山営業所渡辺様（当時）に、新都市センター開発の仕事と役割、永山駅周辺地域、グリナード永山、ベルブ永山についてお話しを伺った。また、イベント運営を学ぶために永山フェスティバル実行委員主催事前説明会、反省会へも参加した。イベント参加者、団体の声を生で聞くことができた。10月…**梅澤ゼミ「多摩大学ゼミナール in 永山学園祭」に協力**。屋外ステージに花を飾って彩った。

4. 成果

今年度は結果的に6つの活動を行うことが出来た。まず「**朝顔約50カップ**」を配布。地域の方々と直接交流することが出来た。朝顔にメッセージカードを添えたことで地域の方々に活動を知って頂くことが出来た。第二に、夏のベルブ永山「**保育室の乳幼児プール**」では、育てたひまわりとルドベキアを披露し、乳幼児、保護者の方々に喜んでいただくことが出来た。第三に**朝顔のグリーンカーテン作り**。第四に「**永山フェスティバル**」のステージ前に育てた花を並べステージ前を飾り、ステージの出演者の方々

からは「綺麗で良かった」とお褒めの言葉を頂くことができた。第五に「**多摩大学ゼミナール in 永山学園祭**」のステージ前を彩った。最後に、季節毎に数回ではあるが、**永山公民館の入口前を寄植えで彩り**、来館者に季節を感じてもらえることが出来た。

5. 反省点

反省点では大きく分けて二つ挙げられる。植物の育成が初めてということもあり自分達に知識や経験が不足していたということだ。保育室の夏のプール、永山フェスティバルなどの植物をイベントに利用する際にも予定通りに育成することが出来ず当日のイベントに支障が出てしまう事があった。自然相手に、いかに植物をイベントに合わせて育てていくのかが来年度の課題となる。

最も大きな反省点は、当初の目的である「地域の方々の交流」にまで至らなかった点である。いずれは、地域の方々がこのグリーンPJに関わってくれて、我々が黒子役になるというのが最終目標である。かなり高いハードルだが頑張っていきたい。

6. 今後の展望

来年度からは、今期の失敗も踏まえてハーブの育成をメインとして活動を行っていきたいと考えている。イベントや公民館入口に花を飾るところまでで、地域交流の仕組みづくりまで至らなかった。私たちはどういった交流を作っていきたいのかということをも改めて考えた。眺めるだけでなく、香りや味など様々な使用用途があるハーブをメインに育て、利用してもらうことで交流イベントの種類を幅を広げたい。公民館料理教室等にハーブを提供し利用して頂き地域の方同士がハーブに興味を持つことで交流のきっかけになればと考えている。

謝辞

「植物を育てる」ことを通じて地域交流の仕組み作りを行うという難しいプロジェクトに取り組んで下さった永山公民館の皆さま、大変なご迷惑をおかけいたしました。本当にありがとうございました。

ご指導いただきました多摩グリーンボランティア森木会の皆さまに心より感謝を申し上げます。夏の水やりシフトを快く引き受けてくれたゼミの仲間たち、ありがとうございました。